授業づくり研修講座　実践レポート

座間市立座間小学校　　中塚　悠

単元名　　　第１学年　　「わたしのよんだ本」

○単元の目標

○自分がこれまでに読んだ本の中から友達に紹介する本を決め、読書カードに書き留める。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(書く能力)

○実践のポイント（工夫）

・型にあてはめながら、なぜこの本がおすすめなのかが相手に伝わりやすいよう読書カードを書かせた。

実践内容

「わたしのよんだ本」は、教科書では書名と作者名だけを読書カードに書いた後にそれを掲示して、その中から互いに読みたい本を選ぶ内容になっている。クラスでは、毎月教師側が用意した本を一冊、ポップつきで紹介し、学級文庫として置いている。今回はそれをきっかけとし、友達におすすめの本を紹介する読書カード作りをすることにした。

　クラスの児童は、１学期から「せんせい、あのね」の学習を通し、「あのね日記」を宿題で取り組んできたり、生活の時間には見つけたことや気付いたことを文章に書く練習をしたりしてきた。しかし、まだまだ文章をうまく作れず、言葉をうまくつなげない児童や、思ったり考えたりしていることを文章にできない児童が多い。そこで今回は、一から紹介の文章作りをするのではなく、紹介カードの型を用意し、登場人物やお気に入りの場面を言葉であてはめるだけで文章を作れるようにした。また、それを線だけの読書カードに書き写し、例文を伝えて自分なりにアレンジできるようにした。

○振り返り（成果や課題）

◎成果

・本を選ぶ際に、「自分が読んでいて楽しい本」ではなく、「相手に紹介するならこんな本、読んでみんなが楽しめる本」という目線で本選びをしている姿が見られた。

・自分なりに、読み手のことを考えて本の面白さやお気に入りの場面を言葉にすることができていた。また、書ける児童は、「続きが気になるような言葉」や「どんな話か想像できる文章」を自分なりに工夫して取り入れた文章作りができていた。

×課題

・元の読書カードの型にあてはめると、文末等が合わずに書きたいことをうまく書けない児童がいた。文末等は自由にし、型を決めすぎない方が良いと感じた。

・様々な学習の中で文章を書く機会を重ねてきたものの、まだまだ思っていることを言葉にしたり、文章にしたりすることが苦手な子が多く、文章を書くということが難しいと感じる児童が多いようだった。研修の中であった「書き慣れる経験」が足りないと感じたので、これから日記や宿題などで文章を書き慣れる経験をさせたいと思った。また、上手な文章を書き写させることで文章の書き方を覚えられるといいと思った。